

医学概論

問題 1 思春期・青年期における心身の特徴に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 思春期には、男女ともに緩やかな身体の変化がみられる。
- 2 思春期における心理的特徴としては、自意識過剰がある。
- 3 思春期には、アイデンティティは形成されている。
- 4 第二性徴に性差はみられない。
- 5 青年期の死亡原因としては心疾患が最も多い。

問題 2 高齢者における薬害有害事象の発生予防や発生時の対処方法に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 服用法を複雑にする。
- 2 定期的に処方内容を見直す。
- 3 若年者と同じ投与量にする。
- 4 投与薬剤の数はなるべく8剤以下にする。
- 5 新規症状が出現した場合に薬剤を追加する。

問題 3 筋骨格系に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 筋肉は骨格筋と心筋の2種類からなる。
- 2 筋組織にはカルシウムを貯蔵する働きがある。
- 3 人体は約400個の骨からなる。
- 4 骨量は小児期に最大となり、青年期以降は減少する。
- 5 骨には血球をつくる働きがある。

問題 4 難病に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 発病の機構が明らかでない疾患であることは、「指定難病」の要件の一つである。
- 2 「指定難病」では、客観的な診断基準が定まっている。
- 3 「指定難病」の患者数は我が国において人口の1%程度に達する。
- 4 「障害者総合支援法」の対象疾患は、「指定難病」より対象範囲が狭い。
- 5 小児の難病については、法律に基づく難病対策はない。

(注) 1 「指定難病」とは、「難病の患者に対する医療等に関する法律」に基づき、厚生労働大臣が指定する疾病をいう。

2 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

問題 5 肺炎に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 市中肺炎の起因菌は肺炎球菌が最も多い。
- 2 誤嚥性肺炎は若年者に多い。
- 3 口腔ケアによって増悪する。
- 4 経皮的酸素飽和度(SpO₂)が上昇する。
- 5 肺炎の診断には発熱が必須である。

問題 6 事例を読んで、Aさんに最も適切な入院形態を1つ選びなさい。

〔事例〕

B市に住むAさん(21歳)は、大学4年生で就職活動中であったが、なかなかうまくいかず、次第に抑うつ気分、意欲の低下、思考制止、不安、不眠を呈するようになった。同居する両親(両親ともに50歳代で共働き)とともに、精神科のクリニックを受診し、うつ病の診断となり治療開始となった。しかし、自宅では生活が乱れ、家に閉じこもりがちになり、定期的な受診や薬物治療が困難な状況となった。自傷行為や家族に対する他害行為はみられないが、なかなか抑うつ症状は改善を認めなかったため、主治医が入院加療の必要性があると判断した。主治医が本人及び両親に入院加療の必要性を説明したところ、本人は入院加療を希望した。その後、紹介状を持参のうえで、入院病床を有する精神科病院に受診した。

- 1 医療保護入院
- 2 措置入院
- 3 緊急措置入院
- 4 任意入院
- 5 応急入院